

提出日：令和 3 年 2 月 24 日

所 属：附属動物病院

氏 名：川原井晋平 職位：講師

役 職：内科実習コーディネーター

## I ティーチング・ポートフォリオ

### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

学生が皮膚病学の知識を習得することに責任を負って表にある科目において講義・実習を担当している。内容を網羅できるように、内科学では総論、臨床病理では検査学、小動物総合臨床では各論を教育し、実習において技術と知識の融合を図っている。総合獣医学において国家試験対策を行っている。Vet OSCEの身体検査担当であり、身体検査学および代謝病の実習を内科実習では皮膚病学のほかにも担当している。皮膚病学に関わる卒業論文に関わる研究活動を指導している。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医内科学	獣医学科	必修	4	150
獣医内科実習	獣医学科	必修	5	150
小動物獣医総合臨床 I	獣医学科	必修	5	150
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	150
臨床病理（今年まで）	獣医学科	必修	4	150
総合獣医学	獣医学科	必修	6	150
獣医学特論 I	獣医学科	必修	5	150
小動物病院実習	獣医学科	必修	6	150

### 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

皮膚病学は獣医学教育モデルコアカリキュラムに含まれており、カリキュラムに沿って、国家試験の範囲である教科書の内容を網羅できるように取り組んでいる。皮膚科を専任の教員が診療している大学は本学を除き 16 大学中、東京農工大、日本大学、岐阜大学などと数が少ない。教育を充足するために日本獣医皮膚科学会では卒後教育に重点をおいて認定医教育を行っている。本学では、学部教育において皮膚病学の知識を網羅することで、卒業後に他科の技術習得に集中できたり、他大学の卒業生と比べて高い知識をもって認定医へと挑戦できたりできるように、自分自身の知識を出し惜しみせずに、学生に伝えることを信念としている。実際に、学外実習に参加した学生が、講義資料を用いながら学外の先生と診察に取り組んだことを聞き、自分の講義の価値を認識することができた。常に新しい知識を取り入れ、皮膚病が生じる機序について解明できるように日々研鑽を心掛けている。日本医科大学にて見学を行い、日本アレルギー学会、日本皮膚科学会、日本皮膚病理組織学会へと学会員として参加することで、疾患としての正常と異常の違いだけでなく、ヒトと動物の違いから、皮膚病学を紐解き、学生に教育できることを目指している。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

講義を行う際は、学生が正常から異常に変わる病態を理解して、病気の知識を覚えることを意識している。機序、症状、原因に対する治療方法を理解することは、単純な記憶に頼った知識の刷り込みではなく、生理学から皮膚病態に関連づけて、応用力のある智恵をつけることができる。いつも説明する例をあげる。炎症による「紅斑」という皮膚の肉眼所見がある。教科書には「毛細血管の充血」と書かれている。「紅斑」を説明する際は、まず、手のひらを指で押させることから始める。手のひらを押しすと赤みが消えて黄色調になり、すぐに赤みが戻る。皮膚の赤みとは、赤血球の色を肉眼で見ていることに他ならない。指で皮膚を押すと、血管というストローのなかの赤血球が左右に押し出されて赤みが抜ける。心臓のポンプによる血圧によって、赤血球が戻り、黄みから赤みが戻る。「紅斑」は、炎症に伴い血管が拡張して、皮膚の一部において赤みが濃くみえる所見である。「紅斑」を単に「毛細血管の充血」と覚えるのではなく、「紅斑」が生じている部位は、血管拡張と血管からの血漿の漏出および炎症細胞浸潤が皮膚で生じていることを理解することができる。さらに、赤色調が皮膚を押すことから戻ること、循環状態の評価まで理解を深めることができる。実習では、口唇や頬の赤みが他の部位より強いことがなぜ、そのように見えるか紹介しながら、紅斑に伴う皮膚病変の見方について説明している。

#### アクティブラーニングについての取組

コロナ禍によってオンライン授業が実践できるようになり、事前に動画による学習を行った後に実際に実習する取り組みを行っている。

#### ICTの教育への活用

まだ活用できていないが、オンラインによる遠隔診療や、バーチャルスライドを用いた皮膚病理の講義を行いたい。

### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

#### ①教育（授業、実習）の創意工夫（A）

講義の資料は毎年ブラッシュアップしている。診療経験を積むにつれて学生に伝えやすい症例を取り入れることになり、講義資料のボリュームは、着任時より増えている。現在は講義をしながら、適度な分量になるように調整を行っている。実習では、単に技術を覚えるのではなく、考察の必要な学習課題を与えるようにしている。診療実習と異なり、基礎実習では健全な実習犬を使用する。このため、診療に密接にかかわる正常を実際に経験できるような工夫をしている。昨年の実習では、皮膚の角層にテープを貼ってはがしてサンプルを染色し、鏡検を繰り返すことで、正常な角層の層構造と角質細胞の見方を実習した。テープ法という皮膚検査を学び、診療実習において皮膚病変で実際に行うことで、正常と異常の所見の違いを学生が理解できるようにした。その場限りの知識にならないように創意工夫を行っている。

#### ②学生の理解度の把握（B）

講義中に質問する、あるいは、期末テスト、臨床実習のなかで、過去の授業や実習で学んだ知識を再び問うことで理解度の把握に努めている。しかし、内容が多いのか伝わりきれないためか、覚えていない学生も少なくなく、改善が必要であると感じている。

③学生の自学自習を促すための工夫 (B)

これまではあまり事前学習や復習の指導ができていなかったが、オンデマンドにて動画を事前に配布できるようになり、事前に視聴して実習の学習効率性を高めて、実習犬の負担を減らせるように努めている。事後の復習も促している。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A)

学生からの質問に答えることは教員の知識の確認と向上につながる。自分が気づくことのできない視点や、自分を俯瞰するための客観性を養えるため、学生からの質問は大切である。したがって、学生からの質問に基づいて毎年、講義のブラッシュアップをしている。

⑤双方向授業への工夫 (B)

学理のディスカッション機能を用いて双方向性授業を試みているが、昨年あまり質問は得られなかった。外科系の講義を研究室生が受けているのを拝見して、見習いながら取り組みを試みたいと考えている。

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

平成 22 年に着任して、総合獣医学の講義を受け持ち、まず、過去問題の洗い出し (ねこのて) から皮膚に関わる問題を選抜した。平成 22 年からは毎年、担当箇所の試験問題を解き、出題内容や出題率を調査している。その結果、試験問題の出題傾向と、皮膚病学で必要な知識について、把握することができ、毎年、学習項目ごとに傾向を代表する問題、前年度の問題を講義中に説明できるように取り組んでいる。今年の講義資料は 1 週間かけて取り組んだ。Ca 代謝、レニン、抗真菌剤、天疱瘡やニキビダニなど自分の講義から得点できた学生がいると信じている。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

H28 年の授業評価では内科実習における講義の長さに指摘があった。このことを踏まえて、講義資料を簡潔にして、内容を少なくするように努めた。

② ①の結果はどうでしたか。

評価する声を聴けていないので、まだ多いと感じている。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

オンデマンドを取り入れたアクティブラーニングを行うことで、改善ができると考えている。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

コロナ禍にあって、今年は内科実習における対面実習を自分が代表して行った。身体検査および採血の実習を行った。3密をさけるために1回に受け持つ学生数を3人4班までとして、小動物の採血と保定、血液塗抹の実習を午前2回、午後2回の4回、4日間実施した。実習時間が1時間～1時間半と普段の半分の時間であるのに対して、ほとんどすべての学生に採血を1回は生体で成功させることができた。これは、①各時間帯に教員が2名ついて、学生が採血できるようにフォローしたこと、②事前にオンデマンドにて採血と身体検査、保定のやり方を動画配信したこと、そして、③採血モデルを用いて採血方法を理解できたことが理由と考えている。担当教員数を増やすことは難しいかもしれないが、今年もオンデマンドを取り入れて、講義の時間を短縮し、学生が集中して実習に取り組める環境を工夫したいと思う。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

FD 講習会に参加する。国際学会がオンデマンドで視聴できることもあり、人、獣医の両方の知識の研鑽に努めたい。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。

診療活動が教育活動に密接に結びついています。短期的な目標としては、皮膚病理、皮膚腫瘍を学び、教育活動に生かすこと。長期的な目標としては、講義で使用する教材を少しずつ作成して、オンデマンド講義⇒モデルや生体を用いた実習⇒ICT 教材を用いた復習と学生にとって効率の良い教育方法を模索したいと思います。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

特になし。